

千葉県立博物館の事業に係る自己評価票(令和4年度事業)

達成度(数値達成度のめやす)		自己評価	総合評価
達成	目標値 \geq 100%	4	A
ほぼ達成	目標値 \geq 80%	3	B
やや不十分	目標値 \geq 50%	2	C
不十分	目標値 $<$ 50%	1	D

満足度欄の達成度		自己評価
達成	達成値 \geq 75%	4
ほぼ達成	達成値 \geq 65%	3
やや不十分	達成値 \geq 50%	2
不十分	達成値 $<$ 50%	1

分類	大項目	中項目	小項目			達成状況	総合評価	備考	
			上段:達成値 下段:目標値	値の説明	数値				
I	収蔵資料の整理・保存有効活用・調査研究	収蔵資料	1	博物館資料の受入等	令和4年度実績	5件	4	A	目標の根拠:これまでの類似の展覧会での実績を参考にした(1,2,3)。 山本正年3点、土肥刀泉1点、江口寿史1点の公開 県ゆかりの優れた作家の作品収蔵(山本正年3点、土肥刀泉1点、江口寿史1点)
					館設定の目標	5件			
			2	資料の情報化・公開実績	令和4年度実績	5点	4		
					館設定の目標	5点			
			3	博物館資料の館の取り組み	令和4年度実績	5点	4		
					館設定の目標	2点			
		収蔵資料の有効活用	4	館外貸出(外部機関等展示等)	令和4年度実績	4件	4		
					要望のあった件数	4件			
			5	館内利用(学術調査等)	令和4年度実績	1件	4		
					要望のあった件数	1件			
			6	著作物資料への利用(出版物掲載等)	令和4年度実績	2件	4		
					要望のあった件数	2件			
調査研究	7	調査事業件数	件数	令和4年度実績	11件	4	A	目標の根拠(館で計画している展示等に関する調査(7,8)) 星野画廊、関西美術院、川島織物文化資料館、山梨県美、福山美術館、那須野が原美術館、木更津市などとの共同調査	
			館の計画	10件					
	8	共同調査事業件数	件数	令和4年度実績	9件	4			
館設定の目標			2件						
9	研究成果の公開状況	論文研究報告	令和4年度実績	3件	4				
			前年度実績	3件					
大項目 I の総合評価(A~D)							A		
博物館コメント	館外への資料貸出業務は、他館との連携および共同研究の足掛かりとして、要望すべてに対応した。また、調査研究と館蔵資料の掲載許可等サービスは、美術館活動の重要な要素であり、今後も研究の充実と利用者サービスに努めたい。								

分類	大項目	中項目	小項目				達成状況	総合評価	備考	
			上段:達成値 下段:目標値		値の説明	数値				
II	入館者数と来館者の満足度	来館状況	1	美術館	入館者数	令和4年度実績	98,989人	4	目標の根拠:これまでの類似の展覧会での実績を参考にした。	
						館設定の目標	80,000人			
			2	企画展(「江口寿史イラストレーション展 彼女」)	入館者数	令和4年度実績	29,601人	4		B
		館設定の目標				16,000人				
		3	移動美術館	入館者数	令和4年度実績	1,019人	2	A		
					館設定の目標	1,500人				
		展示の充実	4	常設展示	更新回数	令和4年度実績	5回	4		A
						館設定の目標	5回			
			5	名品3-クールベの嵐-	実施回数	令和4年度実績	1回	4		
館設定の目標	1回									
6	山下麻衣+小林直人-もし太陽に名前がなかったら-	実施回数	令和4年度実績	1回	4					
			館設定の目標	1回						
総合的な満足度	7	常設展示	アンケート満足度「非常に満足」+「満足」の割合	令和4年度実績	99%	4	A			
				令和4年度実績	88%					
	8	企画展(「江口寿史イラストレーション展 彼女」)	アンケート満足度「非常に満足」+「満足」の割合	令和4年度実績	76%	4				
大項目IIの総合評価(A~D)							A			
博物館コメント	コロナ前の入館者数にはまだ及ばないものの、明らかに昨年度より入館者が戻ってきた。特に企画展では、コロナ感染に留意しながらも、昨年度の6倍近くの入館者があった。									
III	財源の確保	入場料	1	入場料収入	達成率	令和4年度実績	185%	4	R4収入見込額を館目標(100%)としたときのR4入場料収入 今年度の企画展が外部資金の対象外のため	
						館設定の目標	100%			
		外部資金	2	外部資金の獲得	件数	令和4年度実績	0件	1		
						前年度実績	1件			
大項目IIIの総合評価(A~D)							B			
博物館コメント	企画展(「江口寿史イラストレーション展 彼女」)が好評だったため、入場料収入が大幅にアップした。なお、外部資金については、この企画展は申請対象外だったため、実績はなしである。									
IV	広報活動の積極的な展開	広報情報発信	1	HP等の情報発信	アップ数	令和4年度実績	200回	4	A	
						前年度実績	143回			
			2	HPでの利用状況	アクセス数	令和4年度実績	175,770件	4		
		前年度実績				140,758件				
		3	報道機関への情報発信	取材件数	令和4年度実績	27件	4			
					前年度実績	25件				
大項目IVの総合評価(A~D)							A			
博物館コメント	これまでのホームページやTwitterでのタイムリーな広報に加え、企画展(「江口寿史イラストレーション展 彼女」)期間中、Twitterの発信をそれまでの2~3倍に増やしたことにより、ホームページの閲覧数も大幅にアップし、入館者数増にも貢献できた。また、Twitterでは「私のいちおし作品」と題して館の多様な職員による作品紹介など、新たな試みを行った。									

分類	大項目	中項目	小項目				達成状況	総合評価	備考
			上段:達成値 下段:目標値		値の説明	数値			
V	学校及び地域(関係団体)との連携・協働	学校との連携	1	学校利用受入	学校数	令和4年度実績	23校	3	B
					前年度実績	28校			
			2	入館者数	令和4年度実績	1,094人	2		
					前年度実績	1,572人			
			3	生徒・児童	入館者数	令和4年度実績	18,053人	4	
		前年度実績				6,902人			
		4	博学連携(幼小中高への出前講座等)	学校数	令和4年度実績	12校	4		
					前年度実績	5校			
		5	利用者数	令和4年度実績	4107人	4			
				前年度実績	296人				
地域関係団体との連携	6	団体数	令和4年度実績	8団体	4				
			前年度実績	5団体					
	7	連携・共催(大学、NPO等)	利用回数	令和4年度実績	13回	4			
				前年度実績	7回				
	8	利用者数	令和4年度実績	5,105人	1				
			前年度実績	14,123人					
9	友の会活動	利用人数	令和4年度実績	283人	4				
			前年度実績	192人					
10	ボランティア活動	活動延人数	令和4年度実績	272人	4				
			前年度実績	180人					
大項目Vの総合評価(A~D)							B		
博物館コメント	<p>昨年度、学校団体の入館解禁に伴い、バスを利用しなくても来られるアクセスの良さから、特に近隣の学校団体の見学が急増した。今年度はさらに活動の制限が緩和され、バスを使った遠方への課外学習が増加したことにより団体見学数が落ち着いた。一方で、学校内で美術を学ぶ機会を作る動きが増え、学習キットの貸し出しが増えた。 また、これまで実施していたワークショップでの連携以外に、展示でも連携も行い、障害者対応を考えた展示(「彫刻にふれるとき」)の開催による多様な来館者の来館促進や空き展示室の活用を図った。</p>								

分類	大項目	中項目	小項目			達成状況	総合評価	備考		
			上段:達成値	下段:目標値	値の説明				数値	
		来館状況	実技講座	1	陶芸①	参加者数	4年度実績	12人	3	実技講座に関しては募集定員の80%を目標値にする
					募集員数	14人				
				2	陶芸②	参加者数	4年度実績	11人	2	
							募集員数	14人		
				3	ホリデーアート・蜜蝋画	参加者数	4年度実績	9人	2	
							募集員数	14人		
			4	金工(鍛金)	参加者数	4年度実績	中止	2		
						募集員数	14人			
			5	ホリデーアート・コラグラフ	参加者数	4年度実績	10人	2		
						募集員数	14人			
			6	篆刻	参加者数	4年度実績	16人	4		
						募集員数	14人			
			7	こどもの日WS	参加者数	4年度実績	59人	2	ワークショップ等に関しては募集定員の80%を目標値にする	
						館設定の目標	80人			
			8	県民の日WS	参加者数	4年度実績	12人	2		
						館設定の目標	16人			
			9	夏休みWS	参加者数	4年度実績	15人	4		
館設定の目標	12人									
10	地域連携(モノレール)WS	参加者数	4年度実績	7人	3	定員10組に対し、21組の応募があった				
			館設定の目標	8人						
11	100人WS	参加者数	4年度実績	26人	1	定員100名程度に対し、31名の応募があった				
			館設定の目標	80人						
12	ワークショップ(WS)	クリスマスWS	参加者数	4年度実績	10人	3	定員15名に対し、24名の応募があった			
				館設定の目標	12人					
13	ワークショップ(WS)	スプリングWS	参加者数	4年度実績	7人	2	定員15名に対し、24名の応募があった			
				館設定の目標	12人					
14	ワークショップ(WS)	大学連携(筑波大)WS	参加者数	4年度実績	21人	2				
				館設定の目標	28人					
15	ワークショップ(WS)	地域連携(千夜市夜)WS	参加者数	4年度実績	352人	4				
				館設定の目標	96人					
16	ワークショップ(WS)	かんたんWS	参加者数	4年度実績	107人	3				
				館設定の目標	115人					
17	ワークショップ(WS)	対話型鑑賞教室	参加者数	4年度実績	17人	1				
				館設定の目標	48人					

分類	大項目	中項目	小項目			達成状況	総合評価	備考								
			上段:達成値	下段:目標値	値の説明				数値							
VI	教育・普及活動	展覧会関連	18	企画展ライブドローイング	参加者数	4年度実績	940人	4	B	関連事業に関しては募集定員の80%を目標値にする。入れ替わりを含む延べ人数。						
						館設定の目標	288人									
			19	企画展ライブトーク	参加者数	4年度実績	160人	4			入れ替え制を含む延べ人数					
						館設定の目標	144人									
			20	企画展ライブスケッチ	参加者数	4年度実績	289人	4				入れ替え制を含む延べ人数				
						館設定の目標	144人									
			21	「山下麻衣+小林直人」展アーティストトーク	参加者数	4年度実績	65人	1								
						館設定の目標	144人									
			22	大学連携展覧会	見学者数	4年度実績	1232人	2						B		
						前年度実績	1557人									
			23	筑波大連携展覧会	見学者数	4年度実績	2916人	4								
						前年度実績	1973人									
		24	ミュージアムコンサート	参加者数	4年度実績	412人	4	A								
					前年度実績	265人										
		総合的な満足度	実技講座	満足度「とっても良かった」+「良かった」の割合	1	陶芸①	4年度実績		91%	4	A					
					2	陶芸②	4年度実績		100%	4						
					3	ホリデーアート・蜜蝋画	4年度実績		100%	4						
					4	金工(鍛金)	4年度実績		中止							
					5	ホリデーアート・コラグラフ	4年度実績		100%	4						
					6	篆刻	4年度実績		計測せず							
					7	ワークショップ(WS)	夏休みWS		4年度実績	100%		4	こどもの日WS 県民の日WS 地域連携(モルレール)WS 100人WS 大学連携(筑波大)WS 地域連携(千夜市夜)WS かんたんWS 対話型鑑賞教室 はアンケートを実施せず			
					8	クリスマスWS	4年度実績		100%	4						
					9	スプリングWS	4年度実績		100%	4						
					総合的な満足度	展覧会関連	満足度「とっても良かった」+「良かった」の割合		10	企画展ライブドローイング		4年度実績	計測せず		A	
11	企画展ライブトーク							4年度実績	98%	4						
12	企画展ライブスケッチ							164年度実績	計測せず							
13	「山下麻衣+小林直人」展アーティストトーク	4年度実績	92%	4												
14	大学連携展覧会	4年度実績	計測せず													
15	筑波大連携展覧会	4年度実績	計測せず													

分類	大項目	中項目	小項目				達成状況	総合評価	備考			
			上段:達成値 下段:目標値		値の説明	数値						
			16	ミュージアムコンサート	4年度実績	98%	4	A				
		利用状況	17	相談件数 (来館、メール、電話等)	利用件数				計数せず 電話、来館、メールをまとめるシステムを構築していないため、計測をしていない。 問題があった場合は、館内での情報共有を行っている。			
大項目Ⅵの総合評価(A~D)							B					
博物館コメント	コロナウイルス感染症の影響でキャンセルも多く出たこと、当日自由参加のイベントの際、雨天だったことなどにより、参加人数に伸びなやみがあったが、参加者からの満足度は概ね満足の回答が得られた。募集人数に対して希望者が多かったにも関わらず、コロナ患者の増減により直前キャンセルが増えたが、次年度以降はキャンセル待ちのシステムを導入している。なお、簡単に実施できるワークショップ等は気軽に多様な人材が立ち寄る形式での実施にしているため、必要以上に足をとどめさせるアンケートは行っていないが、口頭では手軽にアートを体験できる点で満足度が高い状況を把握している。											
Ⅶ	人材育成と安全管理	実習研修	1	博物館実習	令和4年度実績	7人	3	B				
					募集定員	8人						
			2	教員等の研修	令和4年度実績	6人	2					
					前年度実績	9人						
			3	職場体験	令和4年度実績	なし	中止					
					前年度実績	中止						
			4	インターンシップ	令和4年度実績	8人	4					
					前年度実績	中止						
		5	研修会の開催	実施回数	令和4年度実績	1回	4			A	消防署に救命講習を依頼し、実施した。	
					館の計画	1回						
		6	防災訓練実施等	実施回数	令和4年度実績	2回	4					火災を想定した避難訓練は予定どおり実施した。
					館の計画	2回						
大項目Ⅶの総合評価(A~D)							A					
博物館コメント	博物館実習では、参加予定者がコロナの濃厚接触者になり、参加者数が減少した。また、教員研修は、夏にコロナの患者数が跳ね上がったためか、2回実施予定だった1回では参加者希望がなかった。職場体験の希望もなかった。博物館実習は夏休みに実施するため、大学の担当者に直接連絡できるメールや電話番号を事前に準備するなど、コロナに対する対応は万全を期した。											
Ⅷ	観光資源としての活用	観光連携	1	県外来館団体入込	令和4年度実績	1団体	4	A				
					前年度実績	0団体						
			2	外国人来館入込	令和4年度実績	5人	4					
					前年度実績	5人						
大項目Ⅷの総合評価(A~D)							A					
博物館コメント	県をまたぐ移動が少しずつ緩和され、また外国人の来館者もすこしだが、緩和されている。											

分類	大項目	中項目	小項目			達成状況	総合評価	備考	
			上段:達成値	下段:目標値	値の説明				数値
IX	ICTの活用	ICTの活用	1	デジタルミュージアム等のコンテンツの作成・整備	制作数	令和4年度実績	3回	4	「おうちでアートを楽しもう」内「クールベってどんなひと?」作成、「チーバくんのモバイルをつくろう」「金工作品とモチーフ」整備 デジタルミュージアム等とは「デジタルミュージアム」と「おうちでアートを楽しもう」を指す 千葉学講座の会場とオンラインのハイブリッド方式開催 千葉学講座の会場とオンラインのハイブリッド方式開催
						前年度実績	0件		
			2	デジタルミュージアム等のコンテンツの利用状況	視聴数	令和4年度実績	17,438件	4	
						前年度実績	16,474件		
			3	インターネットを活用したオンラインでの講座等の開催	開催回数	令和4年度実績	1件	4	
						前年度実績	1件		
			4	デジタル・デバイド解消のための対策	実施回数	令和4年度実績	1件	4	
						前年度実績	1件		
大項目IXの総合評価(A~D)							A		
博物館コメント	新型コロナウイルスの影響下で進んだICTの活用が継続している。デジタルコンテンツの視聴数も増え、効果が表れ始めている。次年度以降もICTの活用を増やす予定である。								
X	その他	コロナウイルス感染症対策	1	館内消毒の実施等感染対策実施	令和4年度実績	3回	4	A	館内1日の消毒回数
					前年度実績	3回			
大項目Xの総合評価(A~D)							A		
博物館コメント	新型コロナウイルス感染症に関しては、万全を期した。								
総合評価(A~D) [各達成度の平均]							A		
総合評価と次年度への対策	新型コロナウイルス感染症の対応3年目となる当該年度は、学びの機会を止めず、通常の美術館に戻そうと取り組んだ。ICTを広報や教育普及などに行き活用し、また、展覧会の入場者制限を撤廃し、館全体の活動を活発化した。 また、県立美術館の活性化についてアドバイザー会議で議論が進み、様々な課題が浮き彫りとなり、課題解決に向かい、進むべき方向性も出された。次年度はアドバイザー会議での議論をもとに策定された骨子(案)に従い、様々な課題解決を進める年にしたい。								